小児急性鼻副鼻腔炎症例における薬剤耐性菌の現況

冨 山 道 夫

とみやま医院

2009 年から 2010 年までに当院を受診した小児急性鼻副鼻腔炎症例のうち膿性鼻汁より，*Streptcoccus pneumoniae* もしくは *Haemophilus influenzae* が検出された 522 名を対象として薬剤耐性菌の現況を調査した．*S.pneumoniae*266 株中 DRSP（drug-resistant *S.pneumoniae*）は 166 株（62%），*H.influenzae* の 442 株中 ampicillin（ABPC）耐性 *H.influenzae* は 326 株（74%）検出された．年齢と薬剤耐性菌の関係は，0－2 歳の群において DRSP と ABPC 耐性 *H.influenzae* が高い頻度で検出された．集団保育と DRSP，ABPC 耐性 *H.influenzae* の検出頻度の関連は，集団保育有の群は集団保育無の群と比較し，有意に DRSP，ABPC 耐性 *H.influenzae* が高い頻度で検出された．薬剤感受性に関しては，penicillin sensitive *S.pneumoniae* は amoxicillin（AMPC）が cefditoren（CDTR）より良好，penicillin resistant *S.pneumoniae* は CDTR が AMPC より良好であった．今回の検討により，小児急性鼻副鼻腔炎の第一選択剤は AMPC，第二選択剤は CDTR が適当であると考えられた．